

風の輪

題字 岡村 重夫



構成詩に感動の拍手

共に支えあつた20年

地域に根ざした活動拠点をめざして

淡路こども園は、障害児と家族を支援する専門施設としてスタートし、二十年という節目を迎えました。その出発点は、風の子保育園の統合保育であり、淡路こども園の幼児・児童の相談援助活動から、成人の通所施設である風の子そだち園が生まれました。障害児者の地域生活や子育てを支援していく拠点の発展を願い、七月十八日、記念式典と恒例の夜店まつりが催されました。

淡路こども園

創立20周年記念式典

記念式典は多くの来賓の方々を迎え、午前中に行なわれました。二十周年を感謝して松村昌子前園長から、風の子保育園での障害児保育から、淡路こども園へ引き継がれ、幼児・児童の療育実践を通して、成人の通所施設である風

の子そだち園を設立した経緯から一貫した療育方針の大切さについての話がありました。

それを受ける形で、岩崎隆彦園長が、施設の専門性や地域に根ざす地域生活支援センターとしての役割など、今後の淡路こども園のあり方を示唆しました。民生局や児童相談所など市の関係諸機関のご祝辞を賜り、一部は式典、二部はレセプションと盛大に行なわれました。

中でも「淡路こども園一九九八」と銘うった構成詩は、二十年の歩みを詩で綴り、会を盛り上げました。特に、開園当初の児童が、成人し、自分の言葉で感謝の意を表した際には、参加者全員が感動しました。気負うことなくありのまま素直に語る真摯な姿に

涙する人もおられました。

レセプションでは参加者全員がなごやかな雰囲気の中で、各テーブルをまわり、交流を深められました。

中でも日頃接触することのない地域諸団体代表の皆さんには、これまでくわしい活動内容は伝わっていなかったの

で、「こども園の保育内容とそだち園の活動内容の広さと深さに感銘を受けた」と話す町会長もおられました。多くのご祝辞や、保護者の言葉は、淡路こども園が二十年前から行なってきた実践が非常に先駆的であったこと、障害児が生活する家庭にとって必要不可欠であったことを再認識するものでした。

職員一同、「やってきて良かった」と感じると共に、地域支援の役割を担うことになるこれからの活動に、意を新たにしています。

なお、開設当時の大阪市障害福祉課王幹、松浦健二氏より祝辞をいただきましたので、次頁に概要を掲載します。

感謝

通園の道すがら、二人肩を並べて、紀子は手と目と声で、そして私は言葉で会話をします。紀子はいつの間にか、私の背丈をこえました。

もしも、淡路こども園での経験がなかったら、「どっして体ばかり大きくなるの。他のことはどこに置いてきてしまったの?」と、無意識の中で彼女を否定していたことでしょうか。そうならなかったことを、本当に良かったと思います。(構成詩・保護者のことばより)